

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	6 市史編さん事業	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	17	市史編さん費
		細目	150	市史編さん事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	市史編さん事業
担当部課	コード	10100		担当者 氏名
	名称	企画総務部総務課		
		連絡先	笠井賢治	52 - 4380 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市の歴史・文化に興味・関心をもち、ふるさと学習や郷土史研究等に取り組む市民や伊賀地域の歴史に関心をもつ市外在住の住民や研究機関等	※対象件数
成果(どうする)	新たな歴史を盛り込んだ『伊賀市史』を刊行することにより、当市の歴史的特色を発信し、地域の魅力をアピールすることができる。さらに、編さんの過程で収集した資料を整理・保管し、次世代へ伝えると同時に市内外からの歴史に関する様々な照会に対し、適切に対応することができる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市史編さん条例・伊賀市史編さん要綱	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 27 年度	
三重県史編さん事業		
H21 事業 内容	●『伊賀市史 第6巻 資料編 近現代』を刊行した。●『伊賀市史 第1巻 通史編 古代・中世』の原稿を概ね揃えることができた。●編さん事業を推進するための各種会議(市史編さん委員会2回、編集委員会4回、各時代の専門部会のべ26回)を開催し、編さんの基本方針や計画、編集方法を検討した。●市史編さん資料の収集として、マイクロフィルムによる資料撮影とそれに伴う資料目録作成、伊賀地域関係論文の収集等を行った。●事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「市史編さんだより」を4回掲載した。	
社会情勢の 変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
『伊賀市史』の発刊	巻	目標	0	1	1	1
		実績	0	1		
資料の調査・収集	点	目標	5000	5000	3000	3000
		実績	5130	2850		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
『伊賀市史』各編の発刊巻数	『伊賀市史』全7巻を刊行計画に則り、発刊していく達成(累計)割合	%	目標	14	28	43	57
			実績	14	28		
『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布の冊数をもって事業成果の達成度とする。	冊	目標	700	200	700	700
			実績	1086	119		

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求	
					(千円)
直接事業費計(A)	22,208	25,025	28,316	30,537	
Aの 財源 内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	2,287	358	1,280	1,300
	一般財源	19,921	24,667	27,036	29,237
事業投入人件費(B)	1.8人 12,960	1.8人 12,960	1.8人 12,960	1.8人 12,960	
フルコスト(A)+(B)	35,168	37,985	41,276	43,497	

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	事業費の大半が伊賀市歴史研究会の人件費と旅費であり、その単価設定も低く抑えているので、経費削減は困難な状況であるが、作業の効率性を高めることにより経費削減を努力する。 『伊賀市史』をはじめ既刊の書籍の販売促進に努め、歳入の増加を図る。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 編さんにかかる体制・人件費は他市と比較して低く抑えた状態であるが、刊行計画に則り事業を進めている。 『伊賀市史』をはじめ既刊書籍の販売には委託販売書店の拡大など販売促進に努めているが、歳入の増加に結びついていない。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	藤岡淳次
【方向性】	現状維持
【理由】	平成17年度から平成27年度の間伊賀市史全7巻を刊行する計画により、平成19年度、平成21年度にそれぞれ1巻発刊し、今年度第1巻通史編古代・中世を発刊予定である。市史編さん事業費の大半は伊賀市歴史研究会への専門調査研究委託料及び市史発刊の印刷費である。伊賀市歴史研究会の人件費および編集委員等の旅費については、単価設定を低く抑えており、経費削減は困難な状況であるが、作業の効率性を向上することにより経費削減に努める。また、伊賀市史をはじめ既刊の書籍の販売促進に努め、歳入の増加を図る。
現時点における課題、その他	事業の性格から、費用対効果を直接的に図ることはできないが、専門の委員、調査員等の報酬は他市の事例と比べて低く抑えてあり、今後コストの削減の余地は少ない。今年度から3年間は、市史発刊に係る編集作業と次年度以降の資料収集作業が重なり、業務が集中する。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	編集委員会で進捗状況を確認するとともに、各部会を適宜開催して編さん作業を行い、計画的に市史発刊を行う。